

海上自衛隊P-3Cの貴重な体験

植田 尚

第2回カレッジ防衛モニターの活動は、海上自衛隊の対潜哨戒機、P-3C体験搭乗だった。P-3Cと言えば、アメリカで開発された非常に有名な哨戒機であり、自衛隊で運用されていたことは知っていたが、自分が乗る機会があるとは思っていなかっただけに期待が高まった。

自衛隊神奈川地方協力本部を出発し、厚木基地に到着すると、アメリカ軍の検問を通るといって、珍しい体験をした。海上自衛隊厚木基地内では、私達以外にも自衛隊に興味があると思われる同年代の人たちが、リクルーターの自衛官たちにつき添われて続々と集まって来た。全員が揃ったところで、担当官からP-3Cの概略や飛行中の諸注意などを受けた。そして、ついにP-3Cの搭乗体験！はしごのような階段を登ってP-3Cへ乗り込むと、中には探査ブイや魚雷を落とす発射口やレーダーなどが多数あり、いかにも「情報収集機」という感じだった。興味深かったのはコヒーモーターが機内に備え付けられていたこと。長時間の情報収集が求められるP-3Cでは、乗組員が交代で休憩するための設備が他にもいくつかが設置されていた。

当日はあいにくの雨だったが、1時間弱の飛行の中で乗組員の方に話を伺ったり、タッチ&ゴーを体験したりと、貴重な体験をした。乗組員によると、飛行機に配属されている自衛官は、北に行けば流水を、南に行けばイルカやクジラを見ることが出来るという話を聞いて、陸上自衛隊を第一希望にしている僕だが海上自衛隊へと心が揺らいだ。

体験飛行後は、厚木基地にある展示ブースの見学。厚木基地の歴史や戦前の戦闘機の一部、現在の制服など様々な物が展示しており、どれも興味深いものばかりだった。

当日お会いした広報官の方々の話を聞くと、P-3Cに乗ったことのない方が非常に多く、自分たちがいかに貴重な体験が出来たかを実感。アメリカ軍と併設の基地の中とあって、撮影などの制約が多かった事が少々残念だったが、非常に貴重な体験をさせていただいた1日だった。



筆者は一番左

P-3C 体験搭乗を終えて

片岡 初実

神奈川県にある厚木基地で海上自衛隊の哨戒機P-3Cの搭乗を体験した。

厚木基地へ足を踏み入れるのも初めてであったが、まずその敷地の広大さに驚いた。到着すると施設の窓からP-3Cが見え、それは私の想像以上に大きかったが、実際に搭乗するため目の前に来てみると、更に大きく迫力があつた。私たちが体験搭乗者が窓から景色が見えるように配慮してくれたからか低めの飛行だったので、窓の外が鮮明に見えた。複雑そうな装置がたくさん備わっている一方で休憩スペースもあり、飛行中に機内の端から端まで見学でき、普段乗っている方々と似た感覚を味わえたのではないかと思うと嬉しかった。操縦している方の傍でも見学できたので、目の前の様子、特に離陸や着陸の際の迫力は素晴らしい。搭乗が終わったあとは施設内の展示室を見学し、厚木基地や海上自衛隊のことを知ることができた。現地には県内在住の同年代の方々が来ていたので、その方々と話をすることもできて楽しかった。

P-3Cに乗るといふ滅多にない機会を与えられたことに感謝し、このような体験ができるということや本日も知ったこと、体験したことなどを他の人々に伝えられたらと思う。



筆者は左から3番目

広報センターイベントに参加して

神奈川地本カレッジ防衛モニター 野原 慧

8月2日土曜日、その日は肌が焼けるような日差しだった。その日の朝、僕はカレッジ防衛モニターの活動をするために自衛隊神奈川地方協力本部に来ていた。もうすでにカレッジ防衛モニター他のメンバーが集まっていた。その他にも広報センターイベントに当選された人が集まっていた。ほどなくして出発、たいした時間もかからずに海上自衛隊第2術科学校に到着した。そこで、出港から入港までの模擬訓練を見学したり、電池と磁石とクリップとエナメル線を使うモーターを実際に作ったり有意義な時間だった。他にも海上自衛隊第2術科学校の歴史に関する資料なども見学。お昼を済ませ、今度は海上自衛隊横須賀地方総監部へと向かった。そこには艦艇とヘリコプターの展示や高速機動艇の体験試乗などがあつたが、体験試乗は人気で会場に着いた時にはすでに整理券がなくなっていて少し残念に感じた。

その後はアメリカ軍のベースに行き米軍基地の雰囲気を感じながら歩き回り、横須賀駅で解散した。この日で一番記憶に残っているのは、手作りのモーターだ。作り方はとても簡単だったが、エナメル線を紙やすりで綺麗に剥くところが難しく夢中でエナメルを剥ぎ、部品を組み立て、モーターがちゃんと回った時は嬉しく思った。



クリップモーター作りに没頭する筆者